

日刊金属

発行所 有限会社メタル情報センター

本社 〒530-0043
大阪市北区天満2-12-3
南末広ビル3階E号
電話(06)6353-7831(代表)
FAX(06)6353-7832

東京支社 〒104-0033
東京都中央区新川1-31-8
ニッケハイム茅場町
電話(03)3523-0442(代表)
FAX(03)3523-0443

購読料 6ヶ月 36,750円 前金
3ヶ月 18,900円

アルミ

1月のアルミスクラップレポートおよび2月の見通し LME現物後場買は2,000-2,300ドル、スクラップは前月比+5-10円 橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

■概況:前半は、HSBC中国製造業購買担当者指数(PMI)が51.5と19カ月ぶりの高水準だったことや中国貿易統計で輸出が+14.1%と予測を大きく上回るなどのプラス材料もあったが反面12月の中国消費者物価指数が+2.5%事による追加景気刺激策期待の後退が台頭し上げ幅を抑え2060ドル(現物後場買い)と約24ドル上昇しての前半締めとなった。

後半は12年の中国GDPが+7.9%と13年ぶりに8%を割り込んだ事や中国直接投資額が-3.7%に落ち込むなど悪材料もでたが、1月のユーロ圏総合PMIが48.2と予測の47.5を上回った事、12月の独ZEW指数が+31.5と予測の12を大きく上回ったこと、1月のHSBC中国製造業購買担当者指数PMIが51.9と2年ぶりの高水準だった事などを好感し2月4日現在 LME(現物後場)208

5ドルと20ドル上昇してのスタートとなった。

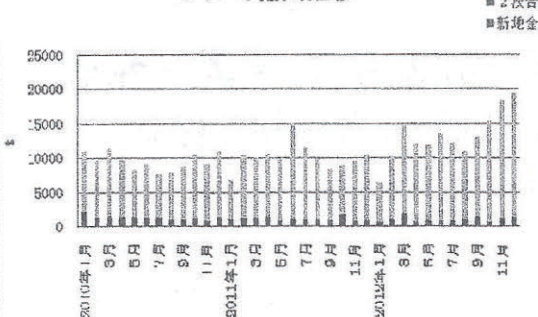
■前月の経済指標:日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-17.2%の70万2285台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-12.9%の22万9333台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+10%の7万5944戸であった。

貿易指標を見ると、財務省貿易統計によ

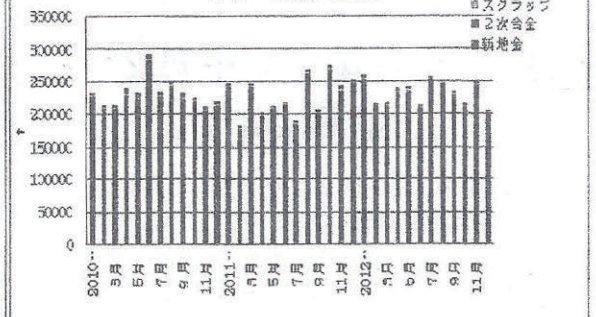
	10月	11月	12月
生産台数	79万2166台	76万7530台	70万2285台
前年比	-12.4%	-8.4%	-17.2%
販売台数	24万3974台	21万4429台	22万9333台
前年比	-3.3%	-3.4%	-12.9%
新設住宅着工戸数	8万4251戸	8万145戸	7万5944戸
前年比	+25.2%	+10.3%	+10%
輸入	10月	11月	12月
新地金	12万3405t	15万4904t	11万5743t
前年比	-19.6%	+28.6%	-21%
二次合金	3万7916t	9万299t	8万6923t
前年比	-24.5%	-22.7%	-14.1%
スクラップ	1181t	631t	676t
前年比	+40.1%	+13.1%	-11.9%
合金スクラップ	3890t	3091t	2302t
前年比	-31.9%	-45.5%	-52.6%

品	10月	11月	12月
新地金	117t	229t	142t
前年比	-25.4%	+37.1%	+12.7%
二次合金	650t	1041t	1193t
前年比	-60%	+45.4%	+61.9%
スクラップ	14697t	17139t	18133t
前年比	+102%	+95.2%	+87.3%

アルミ輸出推移



アルミ輸入推移



れば輸出はアルミ新地金が前月比+12.7%の142t、2次合金が+61.9%の1193t、スクラップが+87.3%の18133t。輸入は新地金が前年比-21%の11万5773t、2次合金が-14.1%の8万6923t、スクラップが-11.9%の676t、合金スクラップは-52.5%の2302t。前月の国内指標では、日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-5%の15万4475t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比-3.5%の6万2656tであった。

■見通し:1月は、米財政の崖問題(減税の終了と自動歳出削減が同時に起こり米個人消費・経済に悪影響を与える)に関して5月末日まで延長法案が可決されたため一旦は危機は遠のいたものの今後の動向に注視。

自動車生産は前年比-17.2%とついに2桁悪化、販売の方も-12.9%とまだまだ減少基調。住宅関連は先月に続き3カ月連続2ケタ増加の前年比+10%(前月比(季節調整済み)-2.9%)の7万5944戸と復興需要も伴って大幅増。自動車関連のアルミ2次合金生産は引き続き前年比-3.5%と4カ月連続の減少、下げ幅は縮小した。欧米や中国での自動車販売回復期待での需要増からの減少幅縮小との見解。その他、住宅・家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前年比-5%と再び悪化。住宅市場の回復を受けたものの家電の悪化が足を引っ張ったとの見解。輸出は新地金が前年比+12.7%の142t、2次合金が+61.9%の1193t、スクラップが+87.3%の1万8133t。内需低迷や輸出が好調な韓国への輸出増との見解。輸入は新地金が前年比-21%の11万5743t、2次合金は-14.1%の8万6923t、スクラップは-11.9%の676t、合金スクラップは-52.5%の2302t。アベノミクスによる円安からの輸入塊の割高感から減少したとの見解。

原料需給に関しては先月に続き新設住宅着工数が前年比+10%と4カ月連続大幅回復の兆しあり、また最大需要家の自動車メーカーも米国の景気回復期待や中国販売の回復期待、アベノミクスによる円安からの国内塊への買いシフトなど明るい材料もあるが、現在は、3月末の決算や政府の経済対策などにおいて具体的な予算、それに伴う需要がまだ決定していない事からメーカー買い気薄。LME価格に関して主なテーマである「米財政の崖問題」が5月末まで先送りされたことでリスクな展開は考えにくくまた新規プラス材料は望めないものの、欧州懸念の後退や、米経済指標の好転、アベノミクスによる日本経済回復期待によるセンチメントの好転から上値はもう一段高の2300ドル。下値は直近2カ月間2000ドル近辺を推移してる事から下値は堅く仮に欧州債務問題の再燃があったとしても想定内である可能性が高く押し目買いがあるとの予測から2000ドル。スクラップ価格については1月後半価格から据え置き、もしくは+5-10円程度の値上げがあるとの予測。

故銅・銅滓
アルミ原料

高価即金買入

《ご照会を乞う》

森 下 商 店

大阪市西成区南津守7-12-46

TEL (06)6659-5577~8

FAX (06)6659-5579

企業 古河電工、平成25年3月期第3四半期決算を発表 金属部門は売上高減、全体では減収増益

古河電気工業は6日、平成25年3月期第3四半期決算を発表した。

それによると、売上高は6,678億5,600万円(対前年同期比3.6%減)、営業利益131億3,300万円(同13.8%増)、経常利益123億

4,800万円(同25.2%増)、四半期純利益41億2,600万円と減収だが、増益となった。

セグメント別の売上高のうち、電装・エレクトロニクスは1,775億1,900万円(同14.4%増)、金属は914億9,200万円(同17.8%減)、軽金